

海外研修の感想

東北大学病院 初期研修医（2年目） 渋谷祐介

1週間のシンガポール研修を終えて、まず思ったことは自分がいかに狭い領域で生きてきたのだろうということです。島国という共通点はあっても、他民族、多言語の中で生きているシンガポールと日本は様々な点で違いがありました。診察室にも言葉がうまく通じない人が現れるため、日本以上に身体所見が大切になったり、医療制度に関しても、日本では自分の好きな診療科に進めるが、シンガポールでは各科の定員が決まっており、厳しい選抜があるため、日本の制度を羨ましがるレジデントもいました。お互いに情報を交換し、刺激を得ることができるすばらしい機会でした。このようなプログラムを研修医生活の間に経験できることは大きな意義があり、是非次の代に受け継いで行って頂きたいと思えます。

この素晴らしい機会を与えてくださった福島県立医大のスタッフの方々、SGHのスタッフの方々の暖かなご支援に深く感謝申し上げます。

